

<今回>274回目 2020年1月31日(金)15時~18時 601号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p141 五王の正体 より

<前回>273回目(20-1-17) 出席者 9名

資料(20-01-17-1)前回のまとめ(清水)

-2) 日程表(清水)

-3) 三國志展(宮崎)

-4) 戸塚七福神(清水)

A 報告 令和2年最初の読書会になりました。おめでとうございます。私は肝心の本を忘れてしまいました。

B-2) 最終的な日程です。-3) 宮崎氏が上野博物館の三國志展に行かれた様子を報告してくれました。定規魏の1尺・24cmの獣の骨、将軍位の金印2個、熨斗は威信物ではないかと大墨氏より、注意喚起あり。鉄鏡は展示されていなかったが、関連新聞で九州日田のダンワラ古墳で梅原末次氏が発掘したものと同一ものという。

-4) 戸塚七福神の資料が余ったので持参した。暇を見て歩かれたら15000歩になる。

懇親会7名 津多屋15334円(2000・7) -1334円

C 読書 p134 百済の武寧王碑

1) 1971・7韓国公州(百済の都熊津)で百済の武寧王陵の発掘が行われ、王と王妃の石製墓誌が出現した。

「寧東大將軍百済斯 麻王年六十二歳癸卯年五月丙戌朔七日壬申崩到乙巳年八月

癸酉朔十二日甲申安昔 登冠大墓立志如左」

2) 日本書紀中の武寧王の記事は①是年 百済の末多王無道にして百姓に暴虐す。国人共に除して島王を立つ。これを武寧王とす。(武烈紀4年壬午502年分注)②百済新撰に云く、末多王無道にして百姓に暴虐す国人共に除つ 武寧王立つ 諱を斯麻という(武烈紀4年壬午502年分注)③夏5月に百済の王武寧薨せぬ(継体紀17年癸卯-522年)百済新撰は日本書紀と斯麻の表記も一致している。三国史記は斯摩王である。

3) 梁書の記事とも一致する。梁の武帝 普通2年(521年)都督百済諸軍事鎮東大將軍百済王に行せしむ(興隆)

4) 大倭の証明 神功紀に百済記が引用されている。①百済記に職麻那那加比跪と云うは蓋し是か(神功47年)

②百済新撰に云わく辛丑年に蓋鹵王 弟昆支を遣わし大倭に向かい天王に侍す。以て兄王の好を修むるなり(雄略5年)

5) 続日本紀の大倭の記事 ①甲申 大倭国をして二槻離宮を繕治せしむ(大宝2年3月)②大倭の国造、大倭の忌寸五百足には施10疋、綿1百屯、布2端、(養老7年10月)

6) 百済記の所引中、大倭の句がある。加羅の国王の妹、既殿至 大倭に向かいて啓して云わく (北野本では本文に属しているが同じ百済記に基づいている)日本書紀は百済本記、百済本紀(三国史記)は別のもの

7) 交錯の論理 三國志の壹与は366年記事 百済記の丁卯(367年)は引用が交錯している。いずれの資料の倭も同一の倭国を継承して描写と見える形をとっている

次回日程 20-2-14(金) 16時から18時 601号室

-2-28(金) 15時から18時 601号室

-3-13(金) 15時から18時 305号室